



Triple Tree Media Information

2026 年 8 月 9 日

厳しい予選から一転、激しいバトルで競り勝ち、力強い走りでチームを盛り上げた Juju のパフォーマンス！



結成 2 年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing (以下、チーム)』は、8 月 8 日 (土) ～8 月 9 日 (日) に宮城県・スポーツランド SUGO にて開催された『BOAT RACE 2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 8 戦』に参戦いたしました。

今大会は土曜日の午前中にフリー走行が行なわれ、午後の予選はノックダウン方式で Q1、Q2、Q3 という緊迫の戦いが繰り広げられ、ポールポジション獲得者にはヨコハマタイヤ賞として賞金 100 万円が贈呈される注目の大会です。

今大会を前に、Juju は東京、お台場で開催された『ABB FIA フォーミュラ E 世界選手権 2025/2026 年シーズン第 14 戦 & 15 戦“2026 TDK 東京 E-Prix”』で日本人として初めて現行マシンのステアリングを握り、お台場ナイトレースでのデモラウンドライバーを務めました。「幻想的な空間で、しかも日本のファンの皆さんの前で世界選手権のデモラウンドライバーを務められて光栄でした」と感想を語り、意気揚々と七夕まつりで賑わう仙台、スポーツランド SUGO へと乗り込んできました。

Triple Tree Racing





土曜日の早朝には雨が降りましたが、フリー走行が始まるころには強い日差しが照り付け、気温 28℃、路面温度 36℃のドライコンディションとなりました。

多くのライバルたちは直前にこのサーキットをスーパーGT 公式練習で走っており、野田英樹監督は1年ぶりにスポーツランド SUGO を走る Juju に無線で「焦ることなく、自分のペースでタイムを上げていけばよいから」とアドバイスを送りました。

セッション中に気温や路面温度が急上昇し、路面温度が 50℃を超える厳しい状況となる中、チームは着々とセットアップメニューをこなしていきましたが、セッション中盤に Juju から無線で直線スピードがとても遅いとレポートが入り、エンジン関係のトラブルが発覚。チームは限られた時間の中で素早く原因を探し出し、対策を施し再び Juju をコースに送り出しました。

そしてセッション終盤、予選アタックのシミュレーションに出た直後に Juju から無線で「タイヤがはまってない」と叫び声が聞こえ、ピットからは安全のためマシンを停止するように指示が出されました。落胆する Juju に、野田英樹監督は「自分もレーサーだったから、この状況で一発アタックの予選に出ていくのかどれほど辛いかその気持ちはわかるけれど、その辛さを乗り越えるのもドライバーの仕事。自分を信じていくしかないよ」と語りかけ、Juju も「ちょっと気分が落ち込んだけれど、気持ちを切り替え、吹っ切ってアタックするしかないよね」と強気な笑顔でスタッフたちを励ましました。

午後の予選、Juju は A 組で出走です。気温 29℃、路面温度 43℃というコンディションの中、最終コーナー方向から雷の音も聞こえ、今にも雨が降り出しそうな状況となりました。予選開始直前、Juju のマシンに今度は無線トラブルが発生。一番大切な情報が何もドライバーに伝えられない厳しい予選となってしまったチームでしたが、Juju は2度のアタックで1分07秒359をマーク。残念ながら Q2 進出はできませんでしたが、マシンのバランスには好感触を得たようです。

土沼広芳チーム代表は、「ミスやトラブルはいろいろ出ってしまったけれど、チームひとりひとりが真剣に自分の仕事に向き合って、きちんと発言するようになってきた。チームとしては良い方向です。マシンで1秒、ドライバーがコンマ5秒縮めるのがまずは直近の目標です」と落ち着いた面持ちで語ってくれました。

決勝当日、スポーツランド SUGO は過ごしやすい天候となり、9時30分のフリー走行開始時には気温 28℃、路面温度 37℃というコンディションでした。Juju は走り出しから好調で、セクタータイムの自己ベストを次々更新し、2度のピットインでセットアップを微調整。最後のアタックではそのままいけば 10~11 番手のタイムをマークしそうな勢いでしたが、セクター3 でスローダウンしていたマシンに引っかかってしまいました。最終的には18周中12周目にマークした1分08秒086がベストタイムとなり22番手で朝のフリー走行を終えました。しかしチームの雰囲気はポジティブで、決勝に向けてさらなる準備を進めていきます。

Triple Tree Racing





決勝レース開始時刻の午後 2 時 20 分、気温 26℃、路面温度 35℃というコンディションの中、51 周レースのスタートが切られました。

23 番手グリッドから好ダッシュを決めた Juju はレース序盤から前に行くマシンを抜くべく闘志にあふれた走りを見せ、前後のマシンと積極果敢なバトルを展開。3 周目には 22 番手、6 周目には 21 番手、11 周目には前に行くジュリアーノ・アレジ選手と激しい攻防戦を展開します。

13 周目にピットウィンドウがオープンし、早めにピットインするチームが出る中、チームはステイアウト戦略を取り、前に行くドライバーとのバトルを続けながら 20 周目の第 1 コーナーで一瞬のスキを見せた前のマシンのインに飛び込みオーバーテイク。その時点で 10 台をパスし、13 番手まで浮上していました。

そして 25 周終了時点でピットに飛び込むと、メカニックたちは素晴らしい仕事でピット作業を終え、Juju は再びレースに復帰します。しかしその直後にコースアウトした車両やストップした車両が出て、セーフティカーが導入されてしまいました。

そのタイミングまで引っ張っていたチームが一気にタイヤ交換に飛び込み、せっかくコース上でオーバーテイクしたマシンにまた前に出られてしまいました。

「せっかく抜いたのに！」と無線で悔しがる Juju に野田英樹監督は、「セーフティカーはタイミングが悪かったね、でもペースがあるからもう一度抜こう。どんどん前に行こう！」と声掛けし、セーフティカー解除後のバトルに備えました。

セーフティカーがピットに戻った 36 周目からの 16 周レースで、Juju は再び 20 番手から追い上げ、雨が少し路面を濡らした際には全体の 4 番手タイムで走る快走を見せてピットを沸かせます。さらに 43 周目には先ほどセーフティカーのタイミングで抜き返された選手を再びオーバーテイクしてみせ、有言実行。そのまま最後まで抑えきり、17 位完走でタフなレースを終えました。

クールダウンラップの最中、無線で Juju は「チームの皆さんお疲れ様。昨日は悔しい 1 日だったけど、今日はタイヤ交換も素晴しかったし、マシンも良かった。楽しかったよ、ありがとう！」とスタッフに労いの言葉を向けました。

Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
8	菅生	51	曇り	26℃	35℃	23 位	17 位

※気温、路面温度は決勝スタート時

Triple Tree Racing





◆ドライバー Juju のコメント

「土曜日のフリー走行では、マシンのセットアップは順調に進んでいたのですがエンジンのトラブルや無線のトラブル、そしてタイヤが外れるトラブルが出て、ちょっと気持ちが落ち込みましたが、しっかりと切り替えて予選のアタックに挑みました。

しかし予選では無線がまったく使えない状況になってしまい、欲しい情報やタイミングがわからず、厳しい結果となってしまいました

それでも諦めずにエンジニアがデータを解析し、メカニックが頑張ってくれて日曜日の早朝から頑張ってくれて、大きくセットアップを変更してくれました。フリー走行走り出し直後からフィーリングが良く、自分本来の走りが出るはずだと確信し、決勝が楽しみになってきました。

そして決勝では1台でも多く抜いてこようと思って気合を入れてスタートし、前半で前を走る選手とバトルをしている際に OTC をかなり使ってしまったので、セーフティカーあけの終盤は厳しい戦いになりましたが、何台も抜けて、久しぶりに楽しいレースをすることができました。頑張ってくれたチーム全員に感謝していますし、本当に素晴らしいピット作業でした。次の富士でも自信を持った走りができると思いますし、あとは予選で前に行くことです。皆さん、暑い中、最後まで応援ありがとうございました」



◆監督 野田英樹のコメント

「土曜日に関しては、笑顔で話せることは何も無いです。流れを良くしようと努力はしましたが、エンジントラブルが出たり、タイヤが外れてアタックの練習ができなかったりと、フリー走行で周回を重ねた割には予選に向けて意味のあるテストができませんでした。それ以上にスーパーフォーミュラのチームとして、一人ひとりがもっとプロとしての自覚を持って戦う意識を持たねばなりません。きちんとしたマシンを用意して、あとはドライバーに頑張ってもらう、そういうチームにしないとダメです。それは監督としての自分の責任ですし、今回その意を強く抱きました。

決勝レースまでに、エンジニアが頑張ってデータを解析してくれて、メカニックたちも早朝から大きなセットアップ変更の作業をしてくれました。フリー走行でその方向性の正しさを確認し、多少ギャンブル的な要素もありましたが、現状でドライバーに渡せるベストなマシンを仕上げ、あとは Juju の頑張りに委ねました。

決勝レースは、速さがありましたね。1スティント目は遅いマシンに引っかかって OTC を使い過ぎてしまいましたが、あの戦略以外になかったので、とにかく前のマシンを抜いて、タイヤ交換をした次の周にセーフティカーが出されるという、めちゃめちゃ運が悪い状況となって、せっかく苦労して抜いたマシンにまた前に出られてしまいました。それでも Juju が頑張って、もう一度そのマシンを抜き返して、さらに前のマシンを抜いて、OTC の残量の関係で抜き返されたりしましたが、それでも集団の中でも速さはあったし、その集団の前のクリーンエアの状態で走っていたら、もっと上の順位は獲れたと思います。

今日は、鈴鹿で見た良いレースに匹敵する力強いレースでした。今回のほうがより多くのマシンをオーバーテイクしてくれたんじゃないかな。

Triple Tree Racing



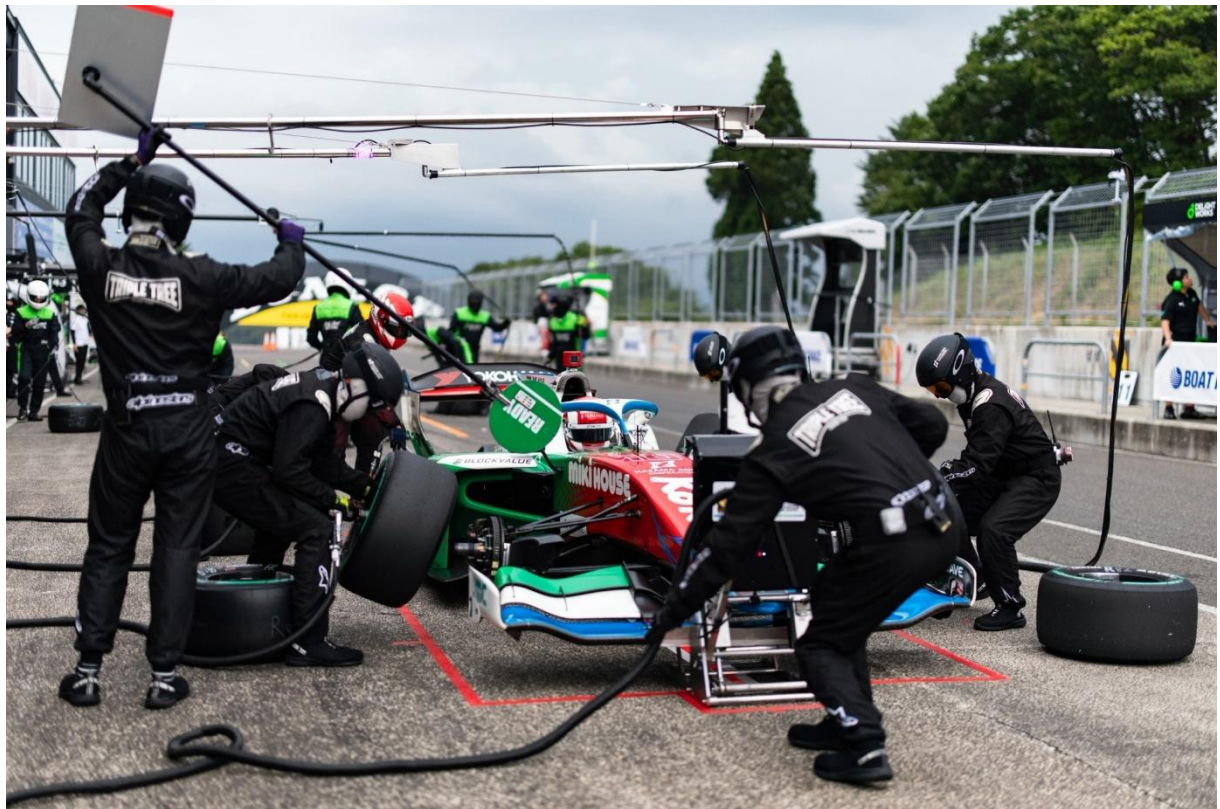


とにかくあとは予選でいかに前にいくかです。今回はフリー走行でのトラブルが足を引っ張った形になりましたが、次の富士には最初から今回得たセッティングを持ち込めるし、決勝での速さは証明できたので、予選でいかに良いグリッドを得るかに集中していきたいと思います。応援してくださった皆さんに心より感謝しています」

◆代表 土沼広芳のコメント

「今日は素晴らしいレースを見せてくれました。あの予選順位から、このオーバーテイクの難しい狭いサーキットで最後まで攻めた走りを見せたドライバーを褒めてあげたいと思います。確かに土曜日はいろいろとミスもあり、トラブルもあったにせよ、ひとりひとりが仕事にプロ意識を持って、それぞれの立場からの発言も増えましたし、早朝からタイヤ交換の練習に励んでいました。

決勝はドライバーの頑張り、そしてチームのピットワークが良かったと思います。Juju があれだけの速さと力強いバトルができるのならば、あとは予選に特化した戦略を組み立てて、少なくとも真ん中より上で予選をまとめるようになれば、大きく前進できるはずです。今回も多くのスポンサーの方々や、ファンの方々が応援に来てくださって、とても注目度の高いチームだと再認識させて頂きました。焦らず着実に前に進めていきたいと思っています。応援ありがとうございました。



◆この件に関するお問い合わせ: マネージメントアドバイザー チャーリー・チェン cac@3tree.jp

Triple Tree Racing

